

授業科目名	ピアノ演奏家奏法研究Ⅰ～Ⅷ	担当形態	実技		
		開講学期	春・秋		
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

ピアノ演奏の基本の技術を実際にマスターし、段階を追って高度なテクニックを身につけ、バロック、古典、ロマン派、近代、現代に及ぶ数多くの作品を通じて各自の個性、特性を生かした創造的表現を高め、演奏家への道を極める。

＝履修の条件と学習の方法＝

楽譜を正確に読み、強弱、楽語の理解は準備して臨む事。

自分で楽曲分析をし演奏可能になったら、音源を何種類か聞き、自分自身の疑問点、問題点を見つけ、教員に質問し、ディスカッションできる事が望ましい。

図書館の利用を期待する。

＝授業の概要＝

＝授業計画＝

レッスンの進度に応じて各期 15 回の指導を行います。

学年ごとの授業内容は下記のとおりです。

(1年次)

1期 基本的な演奏技術の整理をし、より高度な演奏技術の習得に努める。またバロック時代のポリフォニーを理解し、より説得力のある表現豊かなバロック時代の演奏法を身につける。

2期 古典派の作品への理解を深める為にソナタ、変奏曲、協奏曲を通し、分析能力を高め、古典派の作品への理解を深める。

(2年次)

3期 Beethoven ソナタを通し、ハーモニー感、特にゆったりとした2楽章を演奏する事でカンタービレ奏法の表現を身につける。又ロマン派の作品への理解を深め、古典派の作品との表現法の違いを理解する。

4期 ロマン派の作品を通し、音色追求と表現の幅を広げるとともにロマン派の協奏曲全楽章を学ぶ。

(3年次)

5期 レパートリーの拡大をはかり、秋の学内演奏会(30分以上60分以内)に向け、演奏能力を高める。

6期 Chopin の練習曲と前奏曲と教材に、テクニックの整理と曲の性格への理解を深め、自分の演奏スタイルをさぐる。また近現代の作品(10分以上20分以内)のプログラムを学ぶ。

(4年次)

7期 将来の進路に合わせ、レパートリーの拡大と、演奏能力の向上、自分の課題を明確にし、楽曲へのアプローチの方法、練習方法等、自立への道を修得する。

8期 演奏家への道を歩むべく、60分のリサイタル、あるいは30分の小リサイタルと協奏曲一曲、あるいは協奏曲二曲の卒業試験に向け、自立への道を極める。

＝テキスト(必携)＝

それぞれの学生が全く違う速度で進んでいるのでその都度担当教員との相談で決める。

＝参考書・参考資料(必携)＝

それぞれの学生が全く違う速度で進んでいるのでその都度担当教員との相談で決める。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

(V) と (VII) は定期実技試験は実施せず、各担当教員の評価による。

実技試験の評価は、レッスンで学んだことの習熟の度合、音楽への理解の度合、演奏技術、表現力などを総合的に判断して行います。

＝その他＝